

## 接客空間棟と私空間棟 二つの切妻を玄関とDK でつないだ蔵王の民家

宮城県柴田郡・柴田時江氏邸 ●設計・山口省一



▲東南側より見る 手前大きな切妻屋根が和室二間の接客空間棟で向こうが私空間棟中央の風除けて囲った玄関とDKでつないだ



▲背後から見た西側の立面展開 親子のように二つの切妻屋根が並び 中庭には防風用の塀が建てられている 腰高の板壁と白壁が好対照



▲ポーチにはヒバの角材を縦格子状に囲った風除けを設けている 小さな外空間だが屋根や柱の木組みも母屋と変わらない本格的な納まり

### ●現代に即応したみちのくの民家

どこの民家型住宅にも言えるのだが、外観デザインはその地方の伝統や風土性が反映したものである。それは自然から身を守るシェルターとしての機能を備えることはもちろんだが、加えて環境・風景に調和したものであることも興味深い。それぞれ独特の屋根形をしていたり、あるいは装飾を施すことでローカル色が特徴づけられるわけである。

今週とりあげた宮城の家は、後方に蔵王山系をひかえた新しい分譲地に建っている。景勝地とはいえ、冬の西風がめっぽう強い地域で、雪こそ少ないものの寒冷地特有の厳しい自然条件のもとにある。そのような条件をクリアしながら、この地にふさわしい住宅を、首都圏から出向いた建築家によって設計された珍しいケースなので紹介しよう。

▲ポーチにはヒバの角材を縦格子状に囲った風除けを設けている 小さな外空間だが屋根や柱の木組みも母屋と変わらない本格的な納まり

●角材で囲ったポーチの風除けを見所に  
この分譲地は、東北新幹線白石蔵王駅から西北へ15分、奥の山間に造成された、50区画程度の住宅団地である。ゆるい南傾斜の地形で、東南道路という恵まれた立地だが、南側が路面より1・3m高い。東側道路から見ると、東西を軸とした切妻屋根の大小ツインの棟が並び、その間を玄関とDKでつないだ平屋である。玄関まわりは等間隔に隙間をとった角柱による風除けがめぐらしてある。これは機能的な要素も大切だが、深い庇とともに外観上のアクセントとして効果的だ。そして腰壁を板張りとし、上部の白壁と対比させたのは耐久性もあるが、現代和風の端正な気品あるプロポーションを形づくる要因となっている。



▲客間8畳は屋根勾配がそのまま現れた舟底天井になっている 友人を招いて茶道をたしなめるしつらえとした 右手に水屋が見える



▲茶の間は客間につづいており襖をとり払えば一体的に使える 中央には掘りゴタツが設けてある 舟底天井は松合板張り



▲中庭に面した廊下に設けられた水屋 コンパクトだがうまく空間を生かして茶道に必要なされる機能は満たしている

- 所在地 宮城県柴田郡
- 家族構成 1人
- 設計 山口設計工房・山口省一
- 施工 (株)渋谷建設
- 竣工 1990年1月
- 敷地面積 295.25㎡ (89.31坪)
- 延床面積 99.52㎡ (30.1坪)
- 構造規模 木造平屋建て
- 工事費 1638万円

### やまぐち・しょういち



1940年神奈川県生まれ '64年日本大学理工学部建築学科卒業 大矢根建築設計事務所勤務 '71年(有)川井・山口建築設計事務所を設立 '76年山口建築設計事務所に改組 '89年(有)山口設計工房に改称して現在に至る「小塚邸」で神奈川県建築コンクール優秀賞受賞 木質を基調とした作風は洗いか独特の輝きを放ち 根強い支持層を有する 堅実派 TEL.0466(25)4162

▲DKには収納につづく一体の半円テーブルが作り付けられている ここは食事空間であり仕事の延長に使う書斎でもある多目的スペース

▲寝室の奥から書棚と納戸方向に見る 白壁に対して床・天井とも木調の納まりが気品のある和風空間を形づくっている